

令和7年度 宮城県立西多賀支援学校の研究概要 ~令和8年1月末現在~

運営委員氏名 (佐藤 智幸)

研究テーマ	「児童生徒の特性に応じたコミュニケーション能力を引き出す支援の在り方」 — 適切な実態把握に基づいた実践をとおして —
研究目標	「適切な実態把握」をとおして、児童生徒の目標設定と実践を進めることで、児童生徒の特性に応じたコミュニケーション能力を引き出す支援の充実を目指す。
研究内容・方法 研究計画等	<pre> graph TD A[実態把握 (段階表やチェックリスト等の活用)] --> B[目標設定] B --> C[支援の検討] C --> D[実践] D --> E[事例研究報告書の作成] E --> F[現職教育研修会] E --> G[研究全体会 (年度末)] D --> H[チェック・共有情報交換] H --> I[中間報告会] I --> J[報告会] J --> G D --> K[研究グループ活動] </pre>
研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等	<ul style="list-style-type: none"> 本研究は、実態把握により捉えた児童生徒の特性や課題を基に、コミュニケーション能力に視点を当てた目標の設定とコミュニケーション能力を引き出す支援の検討をして、実践を行うものである。個人またはグループで事例研究を行い、事例研究報告書を作成する。 実態把握については、「適切な実態把握」を行うために日々の行動観察以外に段階表やチェックリスト等を活用したり、研究グループ活動の場で複数の目でチェック・共有したりして、客観的・多角的視点をもたらせるようにしている。 研究グループ活動については、学部やコースごと6つの小グループを設定し、実態把握の結果をグループでチェック・共有したり、目標設定やコミュニケーション能力を引き出す支援の検討をしたりしてきた。現在、年間4回のうち3回実施しており、3回目の事例研究中間報告会では、グループ内でこれまでの実態把握から実践までの取組について発表したり、アドバイスし合ったりした。話し合いを通して複数人で考えることで、支援の方法で悩んでいることについて様々なアイディアを得られるなど、それぞれの実践につなげることができている。 校内研究に関する研修会として「障害の重いお子さんとのコミュニケーションに関わる事例研究について」のテーマで、外部の講師の先生から講義をしていただいた。事例研究の進め方や児童生徒のコミュニケーション能力を引き出す指導法や実践例等をお話いただき、校内研究の実践の一助とすることができます。 本研究は2年計画の2年目である。1年目の取組の中で、各自の事例研究の取組や各グループでの話し合いについて、全体で共有する場が定期的にあるとよいとの話題が出た。そこで、それらを共有したり、参考にしたりすることができるよう、校務支援システム等を活用して、事例研究報告書の記載内容や話し合いの記録を閲覧することができるようしている。

※本様式内で簡潔にまとめてください。なお、項目名や枠の大きさは任意に変更していただいて結構です。